

平成30年10月18日(木)

修学旅行とリスクマネジメント

今年の修学旅行では、いろんな課題が散見された。今までもあったことなのだが、今年は最もあらわになった。

ある高校では、関西に向かっている新幹線が台風で静岡の浜松で止まってしまった。その後、新幹線は運休し、浜松近辺のホテルを急遽とって一泊することになった。ある学校では、生徒は数人での関西訪問だったそうだが、静岡の三島で新幹線泊をしたとも聞いた。

ある高校では、札幌で地震が起きた。電気がストップし、何日もその場所で過ごすことになった。食事のままならず、情報も取れない時間が続いた。学校は保護者からの問い合わせでパニックになった。

ある高校では、沖縄からの復路の飛行機が飛ばなくなった。台風が列島を過ぎ去るまで、3日間沖縄に滞在しなければならなくなった。宿泊費の保険適用が1日分しかなく、残りのお金が必要で、どうするか学校では帰ってきてからその対応が続いている。

生徒が交通事故や転落事故にあったり、集団食中毒になったり、生徒が迷子になって帰ってこなかったり、生徒が急性アルコール中毒になったり、因縁をつけられて拉致されたり、お金をだまし取られたり、事件事故の可能性は山とある。が、リスクマネジメントでなんとか今までは切り抜けてきた。

しかし、こんなことが起きると、やらないほうが良いという意見が必ず出てくるだろう。「あつものに懲りて、なますを吹く」ことが何かと起こる可能性があると考える。

学校生活自体が、リスクの塊なので、いっそ、学校生活も取りやめるなどという暴挙も選択肢の中に現れかねない。

今年の夏以上の暑い夏には、甲子園大会もナイターでなどということにもなりかねない。屋内競技の大会では、冷房がないとできない時代が来るかもしれない。大会中のさまざまなことについて、だれが責任を持つのかという議論には勝てない可能性も起こるかもしれない。

学校生活でも、大学入学を保証しなければ違約金を取られる時代が来るかもしれない。だから、毎日8時間も9時間も授業が行われるかもしれない。もっとも、そんな学校だったら、きっと子供たちに選択されないとも思う。しかし、実際にそんな学校は現実のものともなっている。

いろいろなことを考えさせられる修学旅行とリスクマネジメントであった。